平成27年2月1日発行

人権教育広報

ふれあい

第12号

編集・発行　桶川市人権教育推進協議会

朝日小学校　3年　竹本　大織

人権標語最優秀作品

助け合う　仲間がいるから　がんばれる
● 桶川西小６年　木下　紗妃 ●

ふやそうよ　みんなのえがお　わらいごえ
● 加 納 小１年　岡田　結愛 ●

やめようね　なかまはずれに　しらんかお
● 川田谷小２年　清水　匠 ●

ありがとう　みんなの心に　笑顔さく
● 桶川東小６年　山口真以子 ●

みつけよう　ひとりひとりの　いいところ
● 日出谷小２年　板川　心愛 ●

考えよう　「命」の重みと　大切さ
● 朝 日 小６年　畠山　莉子 ●

ごめんねと　素直に言えた子　一等賞
● 桶 川 小６年　髙木　美里 ●

救いの手　勇気を出して　さし出そう
● 桶 川 中２年　冨吉　三奈 ●

ありがとう　言って言われて　あたたかい
● 桶川東中２年　内田　りん ●

忘れない　命はみんな　一つだけ
● 桶川西中３年　小髙　諒子 ●

考えよう　自分の言葉と　相手の心
● 加 納 中１年　白田　桃花 ●

全教育活動を通した人権教育の推進

川田谷小学校

本校では、人権教育目標「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」を掲げ、教育活動全体を通じて、児童・教職員の人権意識を高める取組を行っています。

学校生活の中では、人権標語や人権作文への取組、あいさつ運動やなかよし給食、読み聞かせ活動などを通して、豊かな人権感覚の育成を目指しています。

授業の中では、全教職員が道徳教育に意欲的に取り組み、授業参観や学校公開の機会には家庭や地域の方にも積極的に公開することで、家庭・地域にも人権教育の大切さを考え理解してもらい、学校・家庭・地域が連携して心身ともに健康な児童の育成を目指しています。また、学校課題研究で取り組んでいる算数科では、「基礎・基本を確実に身に付け　学び合う児童の育成」を目指し、児童がお互いの思いや考え方を交流する、学び合いの場を設定しています。そうすることで、お互いの立場や考えを認め合い、思いやりの心が育つように取り組んでいます。さらに、教職員自身の人権意識の高揚を図るために、人権教育啓発ＤＶＤを視聴し、いじめや不登校、差別などについての感想や意見の交流を行っています。

このように、学校・家庭・地域が一体となって、人権教育の推進に努め、児童一人一人の人権感覚の育成を図っています。

地域と共につくる豊かな体験

桶川西小学校

本校では、「差別の不合理に気づき、人権尊重の精神を培い、生活の中にある偏見や差別をなくしていく態度を育てる」を人権教育目標に掲げ、全ての教育活動を通じて人権教育を推進しています。

また、学校課題研究として「よりよい自分をめざし、ともに生きる児童の育成」をテーマにし、道徳教育を研究する中で、学校・家庭・地域が一体となった人権教育に取り組んでいます。

十一月八日（土）に本校ＰＴＡ主催の「くすの木まつり」が開催され、保護者と地域ボランティアの方々の協力で子供たちは、豊かな体験をすることができました。開会式では、児童会の子供たちが中心となってクイズ大会を行い、まつりの開催を盛り上げました。そして、桶川市のマスコット「オケちゃん」の登場とともにおまつりが始まり、保護者の方々のついたお餅を食べたり、囃子連の方々の昔遊びやみどりの会の方々の丸太切り体験・竹とんぼ工作、また消防署や上尾警察の方々によるレスキュー体験や自転車シミュレーターでのマナー体験などさまざまな経験をすることができました。保護者や地域の方々のたくさんのご協力で、子供たちは多くの交流をすることにより、親子のふれあいを深め友達との仲間意識を高めることができました。このくすの木まつりが、地域への愛着へとつながっていくことと思います。

学校の壁を越えて

桶川中学校

本校では、学校教育目標「学ぼう未来へ　育てよう心と体」を具現化するため、人権教育目標「①一人ひとりの人権を尊重する態度、実践力を養う。②相手の立場を考え、ともに学びあえる生徒を育てる。」を設定して人権教育を推進しています。

昨年度は、平和講演会を開催しました。講演では、実際に被爆を体験した方でなければ語ることができない被爆の実相に触れることができました。この講演会を通して、多くの生徒が、核兵器廃絶と平和への思いを強めていました。

例年、晩秋には、校内の樹木や街路樹の落ち葉はきの活動を行っています。これは、生徒会と環境委員会が中心となり取り組んでいる環境美化活動です。今年は、部活動や多くの有志の生徒が参加して取り組むことができました。

また本校は青少年赤十字（ＪＲＣ）登録校として、年末に駅頭募金活動を実施しています。お預かりした募金は、日本赤十字社を通じて「ＮＨＫ海外たすけあい」募金に寄付させていただきます。ご協力いただきありがとうございました。

駅頭募金活動のように、これからも、学校の壁を越えて地域・社会とのつながりをもつ活動を実施していきたいと考えています。今後とも地域の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

いじめ0（ゼロ）宣言！　生活委員会の呼びかけ！

桶川西中学校

本校では、「志を持ち　自ら学ぶ　健康でたくましい生徒」を学校教育目標としています。人権教育においては、「人権意識を高め、様々な人権課題を解決しようとする態度を育てる」ことを大きな目標として掲げています。

本校では、全校朝会を西中タイムと名付けて、校長講話や表彰などを行っていますが、今年度から各種委員会がそれぞれ企画した内容をこの時間に発表しています。

十月二十九日の西中タイムでは生活委員会が「いじめ０（ゼロ）」を全校生徒に呼びかけました。各学年ごとに訴えたい内容を考えて、寸劇にまとめて発表しました。

一年生は、いわゆる「バイ菌回し」の場面を使い、大勢で一人をバイ菌扱いしてからかうことのひどさを演じました。終わりには、その子も輪にいれて皆で笑顔で回りました。

二年生は、携帯のラインなどを使った、個人への陰口の問題を取り上げました。かなり現実的な課題でもあり、生活委員からも「皆さんもこんなことありませんか。」と問いかけがありました。

三年生は、クラスでのいじめについて考えました。誰かがいじめられている場面を見てしまった時、どうするか。

ただ、見ているだけの人も、いじめている人と同じだと訴えました。

終わりに、下の写真のように、宣言をしました。

「わかる」から「できる」へ
朝日小学校

本校では、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる」として、全教育活動を通じて人権教育に取り組んでいます。

児童会とPTAがともに行うあいさつ運動では、朝から元気なふれあい活動を行っています。二学期には、全校あいさつ運動として、一クラスずつ交替で登校時に校門に立ち、元気で明るいあいさつをします。その立場になると、より気持ちのよいあいさつやあいさつの大切さに気づき、いつもより張り切って、元気なあいさつをする児童が多くなります。

また、人権メッセージや人権作文・人権標語作りに取り組みました。「人権とは何か」「人を大切にするとはどういうことか」「何をしてはいけないのか」などを考えることを通して、人権についての正しい知識や理解を深めたり、人権感覚を育んだりすることができました。全児童の人権標語は、本校の人権週間に合わせて校内に掲示します。

福祉委員会では「ペットボトルキャップ回収活動」をしています。「わかる」から「できる」へ、たとえ小さな力でも、みんなで取り組むことで大きな力になると知り、実践しています。

今後も、家庭や地域と協力して豊かな人権感覚の育成に努めていきます。

あいさついっぱい笑顔いっぱいの日出谷っ子
日出谷小学校

本校では、「共に学び合い、共に生き、共に明日をつくる」を学校教育目標と定め、差別に気づき、差別を許さない人権教育の推進のため、次のような人権教育の取組を行っています。

「心がかようあいさつ運動」

児童会の児童や代表委員、教職員が玄関の前に立ち、あいさつ運動をしています。今年度は、児童会であいさつの仕方を工夫し、「おはようございます。」という言葉に手振りをつけるあいさつ運動を実践しています。その結果、子供たちは楽しみながらあいさつするようになり、誰に対しても自分から進んであいさつするようになりました。この取組を生かして、「あいさついっぱいの日出谷っ子」を目指しています。

「心はひとつ　ふれあいタイム」

「ふれあいタイム」では、一年生から六年生までの縦割り班をつくり、活動しています。六年生が班長となり、下学年の子供たちと遊んだり、交流をしたりしています。高学年は、低学年のことを考え、工夫した活動を計画しています。高学年は、上学年としての責任をもって活動することで達成感を味わい、下学年は上学年の子供たちと楽しく遊べたことに喜びを感じています。

今後も、これらの活動を通して、お互いを認め合える、笑顔いっぱいの日出谷っ子を育てていきます。

『ハートフル』なつながりを
埼玉県立桶川西高等学校

本校の校門をくぐると、正面に校舎から体育館への通路が見えます。その壁面には『ハートフル桶西』と書かれた看板がかかっています。『ハートフル』とは何でしょうか?訳は『心のこもった』という意味の言葉です。また、本校の正門の脇には『たのしい・ためになる・たよれる学校』という横断幕が掲げられています。本校はこの二つの言葉を基盤として教育活動が行われています。

では、この二つの言葉を基盤とした教育活動はどのようにあるべきでしょうか。それは人と人とのつながりを大切にしたものです。教師と生徒、生徒と生徒、教師と教師、色々な関係性があります。その全てにおいて人としてのつながりを大切に考えなければなりません。そして、その積み重ねが人権感覚の育成につながると考えます。

学校全体としては、助産師による講演会を開き「命の大切さ」を学びます。学年としては二学年で沖縄への修学旅行も含めて、平和学習に取り組んでいます。他学年でも人権に関するDVD視聴等を行っています。また、1年間を通じて総合的な学習の時間を利用して道徳教育を行っています。

これらの人権を特に考える教育活動と、日常的な人のつながりを考えながらの教育活動の両方に真剣に取り組んでいきます。

今後も、人権問題について考え、ハートフルな人間形成を目指します。

人権教育DVDの紹介

〈一人ひとりの心は今!〉

〈概要〉
風も木も空気もみんな平等や
人が人を差別する・・・
こんなことあってはならんことや!
エセ同和行為に対して怯むことなく、一貫してき然とした態度で拒否し、また、障がい者問題を社内で取り組んで行く若い社員達の姿を描く感動の人権啓発ドラマ。

〈いじめ脱却マニュアル いますぐできる対応法〉

〈概要〉
子供たちのいじめ体験を再現ドラマとして挿入しながら、よりわかりやすく、いじめへの対応法を解説。子供の心情を汲み取りつつ、教師の立場、親の目線、カウンセリングの視点から総合的にいじめをとらえ、現場ですぐに活用できる対策が紹介されている。

※視聴をご希望の方は、生涯学習文化財課までお申し出ください。

人権作文

「新幹線の中での出来事」

桶川西小学校六年
小島　遼祐

五年生の冬休み、ぼくは家族と一緒に岡山に帰省した。一月二日、岡山から埼玉に帰る新幹線の中で、ぼくはある出来事に出くわした。ぼくは、この時に起こった事がしばらく頭をはなれず、いろいろな事を考えた。

新幹線の出発時刻はちょうどお昼の時間だったので、ぼくたちは岡山駅でお弁当を買った。新幹線が動き出し、ぼくがお弁当を食べようとしたまさにそのとき、横からいきなり手がのびてきて、ぼくのお弁当の中身を手でつかんで持っていった。いっしゅんの出来事だった。びっくりして、ぼくはしばらく身動きがとれなかった。そして、手がのびてきた方を見ると、男の人がその人のお母さんにいすにおしもどされているところだった。

ぼくは、「なんでこの人はぼくのお弁当をとったんだろう」と思った。そして、様子を見ていて、もしかすると、この男の人は何かしょう害があるのかもしれないと思った。

すぐに、その男の人のお母さんがぼくの近くに来て、

「ごめんなさい。ごめんなさい。本当にもうしわけありません。」

と言いながら、何度も頭を下げた。

ぼくは、どうしたらよいかわからず、ただそのお母さんを見つめることしかできなかった。

ぼくのお父さんとお母さんは、

「だいじょうぶですよ。気にしないでくださいね。」

と言っていた。ぼくは、周りの人達がぼくたちに注目しているのを感じた。なんだかいごこちが悪く、空気が張りつめているのを感じて、いやな気分になった。ぼくのお父さんとお母さんは、ふだんと同じような感じで男の人のお母さんと接していた。ぼくは、すごいなと思った。ぼくもあんなふうに接してあげられるようになりたいなと思った。また同じような場面にあったら、ぼくもお母さんのようにやさしく

「だいじょうぶですよ。気にしないでください。」

と言いたい。ぼくは、男の人のお母さんもすごいと思った。多分今までにも同じようなことが何度もあって、その度につらく大変な思いをしたと思うからだ。ぼくは、男の人のお母さんの気持ちを考えて行動できるようになりたいと思う。

この出来事をぼくは忘れないと思う。しょう害のある人や病気の人、いろいろな事情をもった人がいる。そういう人に対して、あわてないで思いやりを持って接したい。そのためには、ぼく自身が強くならなくてはいけないと思った。

編集後記

みんなで築こう　人権の世紀

～考えよう　相手の気持ち　育てよう　思いやりの心～

様々な人権課題解決のために、私たち一人一人が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、日々の実践に向けて努力していきましょう。

桶川市教育委員会生涯学習文化財課
〒363-8501　桶川市上日出谷936－1
TEL　048－786－3211（代表）